

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
ヤマモト アキホ 山本 明歩	男	1970年	教授	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	修士(文学)	専門分野	文化人類学 考古学 外国語教育	
学 歴	1994年	3月	国際基督教大学教養学部理学科卒業(教養学士)	
	1994年	4月	東海大学大学院文明学科文明研究専攻 博士前期課程入学	
	1996年	3月	東海大学大学院文明学科文明研究専攻 博士前期課程修了(文学修士)	
	1997年	4月	東海大学大学院文明学科文明研究専攻 博士後期課程入学	
	2000年	3月	東海大学大学院文明学科文明研究専攻 博士後期課程単位取得満期退学	
実 務 経 験	1996年	6月	英会話スクールAEON 非常勤講師(1999年6月まで)	
	1998年	9月	東海大学教育補助(1999年3月まで)	
	1999年	9月	東海大学教育補助(2000年3月まで)	
	2000年	3月	東京福祉商経専門学校専任講師(2002年3月まで)	
	2000年	4月	東京福祉大学非常勤講師(2002年3月まで)	
	2001年	4月	フェリス女学院大学非常勤講師(2005年3月まで)	
	2002年	4月	関東学院大学非常勤講師(2012年3月まで)	
	2003年	4月	湘南工科大学非常勤講師(2005年3月まで)	
	2005年	4月	フェリス女学院大学専任講師(有期/2010年3月まで)	
	2010年	4月	ファイブアカデミー専任講師(2010年9月まで)	
	2011年	4月	京都文教大学特任准教授(有期/2015年3月まで)	
	2015年	4月	高知工業高等専門学校准教授(2017年3月まで)	
	2015年	8月	高知短期大学(兼 高知県立大学)非常勤講師(2015年9月まで)	
	2017年	4月	山梨英和大学准教授	
2020年	4月	山梨英和大学教授(現在に至る)		
受賞 歴				
所属 学会	2008年	10月	日本人類学会	
	2019年	9月	キリスト教史学会	
特免資 許許格 等・・				
e-mail	非公表			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>日常でも、そしてまた学問の世界でも、他人の話や専門家の考えをそのままのみにすることなく、常に自分の頭で考え、自己の責任において判断することの喜びと難しさを伝えたいと考えている。学生には、思い込みによってではなく、可能な限り多様な視点から事実を分析し、理解しようとする試みを通じて、真理へと続く扉をひとつ開けてもらえたらと願っている。</p> <p>そのためにも、単に知識を提供するだけでなく、可能な限り学生が自ら考え、学生自身が主体となって自己の考えを深めていけるような授業を理想としている。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>1. 反転授業の導入 英語2aの授業等で2020年度より反転授業を取り入れた授業運営を行なっている。これによって次のような効果が得られている。 1.履修者の英語の能力や学習方法に差異があっても、各自が自宅で自分に合ったペースで課題をこなすことができ、より集中して課題に取り組むことができる。 2.履修者の疑問やリクエストに応えながら授業を進めることで、履修者の自主性を引き出すと共に、必要としている内容を重点的に解説することができる。</p> <p>2. ポップアップ問題 英語1の授業で、2020年度よりフラッシュカードに類似したポップアップ問題を作成し、授業の中で使用している。短時間で単語を記憶することを繰り返すことで、スペリングの正確さを向上させるだけでなく、文法に関する課題を取り入れることで、総合的な英語の認知機能向上に取り組んでいる。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>1. ポップアップ問題 2022年度は2021年度に作成したポップアップ問題をさらに体系化して授業の中で活用した。</p> <p>2. 語彙確認用テスト ポップアップ問題で使用する語彙のテストを学期の始めと終わりに実施することで、ポップアップ問題の効果を確認するべく、問題を作成している。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等 特になし</p>
担当授業科目	<p>2022年度 外国語(英語1aK・1bE・1cK・1dC・1dE、英語2aB、英語4a・4b)、世界の文化、人間と文明、展開ゼミナール、専門ゼミナール、卒業プロジェクト研究、ICTスキル1D・2B</p>
代表的シラバス	<p>概要箇語のリスニングを主軸に据えて授業を進めます。自己紹介、道案内、食事の注文など、日常的なシーンで使用する英語を題材に、リスニングの力を磨くための様々な練習を演習形式で実施します。最初から会話の内容を全て聞き取るのではなく、自分の持っている英語の知識を聞こえてくる音声と結びつけながら、少しずつでも聞き取れる範囲を広げようとする努力を求めます。</p>
教育改善活動	<p>2017年度～2022年度に山梨英和大学で行われたFD活動には全て参加した。</p> <p>2018年3月に英語教育ワークショップを主催した。</p> <p>2012年には京都文教大学でFD委員の一人として、学内FD活動の発展に寄与した。また、京都文教大学、高知工業高等専門学校などで学内のFD講習会や研究会に参加してきた。</p> <p>2017年に山梨大学で開催されたICT活用研修会や、2012年に名古屋工業大学で開催された教育著作権セミナーに参加するなど、学外で開かれる教育改善活動にも積極的に参加してきた。</p>
教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価 学生による授業評価は毎年実施しており、おおむね高評価を得ている。しかしながら、自己評価としては、特に語学教育において、学生の語学力に合わせた授業を展開するという点で、まだ満足のないことがある。特に、該当する文法知識をすでに持っているがそれがうまく使いこなせていないという学生が多い中、ポップアップ問題をはじめとする教材の開発して実施するなどしているが、まだ十分に満足いく結果を得ることができていない。可能な限り客観的なデータを収集することにより、学生の語学力を少しでも引き上げる的確なレベル設定を心がけていきたいと考えている。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価 2016年度実績 高知工業高等専門学校において、同僚教員による授業見学を受け入れると同時に、他の教員の授業を見学することにより、高専の教育環境での教育効果向上を図った。</p>

研究業績

研究の特徴	<p>現在の研究内容は文化人類学的研究と言語教育についての研究に大別される。文化人類学的研究においては、新大陸の諸文化に主軸を置き、人類の到達から移民の時代を経て、多様な価値観が併存する現代社会まで、文化と環境の相互作用を主軸に置いて研究を進めている。また、言語教育については特に言語習得におけるスキーマ形成の重要性に注目し、それを言語教育に活用する方法を模索している。</p>
研究経歴	<p>2022年 山梨英和大学教授 日本におけるアナバプティスト教会の展開と現状についての資料収集を継続しつつ、日本におけるアナバプティズムについてキリスト教史学会での学会発表を行った。</p> <p>2021年 山梨英和大学教授 日本におけるアナバプティスト教会の展開と現状についての資料収集を継続しつつ、環境と文化の相互作用について日本人類学会での学会発表を行った。</p> <p>2020年 山梨英和大学教授 日本におけるアナバプティスト教会の展開と現状についての一次調査を実施した。</p> <p>2019年 山梨英和大学准教授 日本におけるアナバプティスト教会の展開と現状についての研究に着手した。新型コロナウイルス感染拡大の収束を待って、実地調査を2020年度に予定。</p> <p>2018年 山梨英和大学准教授 映画を題材として、英語における非文が現れるパターンについて分析を行った。</p> <p>2017年 山梨英和大学准教授 後期旧石器時代の狩猟パターンが生態系に与えた影響についてのシミュレーション解析の精度を向上させた。</p> <p>2016年 高知工業高等専門学校准教授 後期旧石器時代の狩猟パターンが生態系に与えた影響をシミュレーションを援用して分析した。</p> <p>2015年 高知工業高等専門学校准教授 英語学習についての固定観念を持つ社会集団に対して働きかけ、実質的な語学力向上を目指す方法について模索した。</p> <p>2014年 京都文教大学特任准教授 現代社会におけるネイティブアメリカンの位置づけを、新大陸の諸文化について現在得られている様々な知見を基に研究した。また、前年度に引き続き、コンピュータープログラムを用いた英語の自宅学習の有用性について、実証的研究を行った。</p> <p>2013年 京都文教大学特任准教授 コンピュータープログラム(ネットアカデミー)を自宅学習のツールとして用いる上で、その有効性と効果的な利用法に関するデータ収集を行った。また、言語教育におけるスキーマ構築の重要性に注目し、その効果的な適用方法について模索した。</p> <p>2012年 京都文教大学特任准教授 アナバプティストについての見方が多分に偏見を含むものであることを指摘し、フィールドワークに基づく文化人類学的考察を行った。</p>
研究実績	<p>(1) 著書</p> <p>1. 2016年 1月 ふくろう出版 『科学の岸辺』 単著 ISBN: 978-4-86186-665-4</p> <p>(2) 学術論文 (2012年以降)</p> <p>1. 2019年 3月 単著 「映画の原稿に見る非文の構造」 山梨英和大学 『山梨英和大学紀要』 第17号 pp1-14 (日本語学論説資料採録論文)</p> <p>2. 2018年 3月 単著 「大型哺乳類の絶滅に対する環境因子と狩猟因子の相互作用」 山梨英和大学 『山梨英和大学紀要』 第16号 pp15-26</p> <p>3. 2015年 3月 単著 「プロト・ユーラシアンとしての「ネイティブ・アメリカン」」 京都文教大学人間学研究所 『人間学研究』 第15集 pp33-47</p>

研究実績	<p>4. 2015年 3月 共著 陸君、中窪靖、ジェラルド・カズンス、山本明歩著「アルク・ネットアカデミーを利用した英語基礎力アップの方策」京都文教大学人間学研究所『人間学研究』第15集 pp1-18</p> <p>5. 2014年 3月 単著「認知言語学と英語教育」京都文教大学『総合社会学部研究報告』第十六集 pp29-45</p> <p>6. 2013年 3月 単著「アナバプティストの多様性」京都文教大学『総合社会学部研究報告』第十五集 pp11-26</p> <p>7. 2012年 3月 単著「英語学習に見られる生産性(productivity)の比較」京都文教大学『人間学部研究報告』第十四集 pp1-14</p> <p>(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p> <p>研究報告</p> <p>1. 2023年 7月 単著「北海道におけるアナバプティスト教会ーアイデンティティ問題を中心に」キリスト教史学会『キリスト教史学』第77集＊ページ等未定</p> <p>2. 2019年 3月 共著「キリスト教と人間文化学:メイプルカレッジ 連続講演報告」山梨英和大学『山梨英和大学紀要』第17号 pp85-108 (担当箇所:「文化から考えるキリスト教」 pp.95-99)</p> <p>3. 2018年 3月 共著「宗教改革500年の旅ーわたしたちは何処から来て、何処へ向かっているのか?ー」山梨英和大学『山梨英和大学紀要』第16号 pp78-148 (担当箇所:「宗教改革、海を渡るーアナバプティストの歴史と現在ー」 pp.100-103)</p> <p>学術誌編集</p> <p>1. 2014年 4月 京都文教大学、総合社会学部研究報告編集委員会の委員として、同研究報告の編集作業に参加した。</p> <p>査読</p> <p>1. 2012年 11月 総合社会学部研究報告 第十五集 (2013年 3月刊)</p> <p>2. 2012年 2月 人間科学研究 第12集 (2012年 3月刊)</p>
	競争的資金採択課題
学会等発表・役員参加	<p>2022年 9月 「北海道におけるアナバプティスト教会ーアイデンティティ問題を中心にー」単独 キリスト教史学会学会 第73回キリスト教史学会大会 於:オンライン開催</p> <p>2021年 10月 「定住化と気候の安定性」単独 日本人類学会 第75回日本人類学会大会 於:オンライン開催</p> <p>2016年 10月 「大型哺乳類とホモ・サピエンス」単独 日本人類学会 第70回日本人類学会大会 於:NSG学生総合プラザSTEP</p> <p>2013年 8~9月 「多様化する学生と大学英語教育の新たな取り組み」陸君、中窪靖、山本明歩 大学英語教育学会 第52回国際大学特別企画 グローバルポスターセッション 於:京都大学</p>
受託共同研究の実績	2003年 4月より 「多様化する学生と大学英語教育」人間学研究所共同研究プロジェクト
大学院生指導	特になし
対研究する能力価に	発表論文の多くは査読付きのものを選択しているが、それらの査読結果によれば、概ね高い評価を得ている。学術論文1は日本語学論説資料に採録された。

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2022年 4月	学生部担当長、英語強化プログラムチーフ、大学経営協議会、大学運営評議会、大学評価、改革推進会議、学生部運営会議、学部入学者選抜会議、大学院入学者選抜会議、危機管理委員会、学位記授与式入学式プロジェクトチーム
	2021年 4月	学生部担当長、英語強化プログラムチーフ、大学経営協議会、大学運営評議会、大学評価、改革推進会議、学生部運営会議、国際交流室運営委員会、学部入学者選抜会議、大学院入学者選抜会議、危機管理委員会、山梨英和大学新型コロナウイルス感染症対策本部、学位記授与式プロジェクトチーム
	2020年 4月	学生部担当長、英語強化プログラムチーフ、大学経営協議会、大学運営評議会、大学評価、改革推進会議、学生部運営会議、国際交流室運営委員会、学部入学者選抜会議、大学院入学者選抜会議、危機管理委員会、山梨英和大学新型コロナウイルス感染症対策本部、学位記授与式プロジェクトチーム
	2019年 4月	学生担当主任、英語強化プログラムチーフ、学生サービス部運営会議、教職課程運営会議、紅楓祭実行委員会顧問、学生会顧問(9月～)
	2018年 4月	大学運営評議会、学生サービス部運営会議、国際交流室室長、国際交流担当主任、教職課程運営会議、学部入学者選抜会議
	2017年 4月	入試広報部運営会議、教職課程運営会議などを担当した。
	2016年 4月	高知工業高等専門学校において、国際交流委員会委員、英語教育コアメンバー、学習支援室副室長、オーストラリア語学研修担当、英検主担当、水泳部顧問、文具探求同好会主顧問などをつとめた。
	2015年 4月	高知工業高等専門学校において、教務委員会委員、国際交流委員会委員、英検副担当、水泳部副顧問などをつとめた。
	2014年 4月	京都文教大学において、総合社会学部研究報告編集委員会委員、入試委員会委員、研究成果刊行助成委員会委員、修学旅行生受け入れプロジェクト委員などをつとめた。
	2013年 4月	京都文教大学において、広大連携委員会委員、入試委員会委員、国際交流委員会委員、修学旅行生受け入れプロジェクト委員などをつとめた。
2012年 4月	京都文教大学においてFD委員会委員、入試実行委員、宗教委員会委員、オープンキャンパス委員会委員、修学旅行生受け入れプロジェクト委員などをつとめた。	
アドバイザー活動実績	2022年度展開ゼミナールで担当したアドバイザー23名に対して面談を含む指導を行った。また、専門ゼミナール、卒業研究等で学生の指導並びにアドバイザー業務を行なっている。	
後進育成活動実績	特になし	
社会貢献活動	(1)講演会	
	2017年 10月	山梨県民コミュニティカレッジ2017の第4回講義を担当 於:山梨英和大学 講演タイトル:「宗教改革、海を渡る ～アナバプティストの歴史と現在」
	(2)出前講座	
	2021年 3月	富士河口湖高等学校「言葉の不思議」
	2018年 9月	長野県赤穂高等学校「言葉の不思議」
	2018年 3月	山梨県立身延高等学校「チンパンジーと人間の知恵比べ」
	2017年 11月	山梨県立白根高等学校 「文明と文化」
	2017年 10月	甲府城西高等学校 「人類と文化の発達」
	2017年 9月	星槎国際高等学校 「チンパンジーと人間の知恵比べ」
	2012年 1月	大磯町国府小学校において、アメリカ合衆国やタイの文化について講義を行った。
2011年 10月	京都文教高校において2011年度秋学期アドバンスレクチャーを担当した。	
(3)公開講座		

社会 貢 献 活 動	2020年 10月	山梨英和大学のメイプルカレッジで、共同公開講座を担当した。 講座名:「キリスト教と人間文化学」 担当講義名:「新約聖書の舞台裏」
	2019年 10月	山梨英和大学のメイプルカレッジで、共同公開講座を担当した。 講座名:「キリスト教と人間文化学」 担当講義名:「キリスト教の文化的側面 パンとワインの文化史」
	2018年 10月	山梨英和大学のメイプルカレッジで、共同公開講座を担当した。 講座名:「キリスト教と人間文化学」 担当講義名:「文化から考えるキリスト教」
	2017年 10月 ～12月	山梨英和大学のメイプルカレッジで、3回にわたる公開講座を担当した。 講座名:「人とお酒と文明と 人類の進化とアルコール」
	2012年 9月	京都文教大学において、「身近な異文化交流」と題された2012年度公開講座を担当した。講演タイトル:言葉と文化のずれの違い
	(4)学外審議会・委員会等	
	2019年 4月～ 22年3月	地域社会活動支援事業委員会委員
	2019年 4月～ 20年3月	令和元年度学生イニシアティブ事業審査員
	2019年 4月～ 20年3月	令和元年度発達障害者雇用支援連絡協議会
	(5)その他	
2020年 1月	FM FUJI Terminal~NEWS WORLD~に出演(収録は2019年12月) テーマ:歴史に学ぶ	
2020年 3月	FM FUJI Terminal~NEWS WORLD~に出演 テーマ:疾病と人類史	

成果と目標

専門的成果	<p>① 大型哺乳類の絶滅に関するシミュレーション研究を行い、ホモ・サピエンスが独特な狩猟パターンを選択することで、狩猟が死因に寄与する割合が少なくとも、気候変動など他の要因と複合的に作用することで、絶滅のリスクを大きく増加させる可能性があることを示した。</p> <p>② 現代社会の中で独特なライフスタイルを堅持しているオールドオーダーと呼ばれるアナバプティストについてのフィールドワークを実施し、彼らの社会の根底に「選択する自由」があることを示した。</p> <p>③ 映画の原稿に見られる非文の特徴から表面には現れない文法スキーマの構造を明らかにすることを試みた。話し手の意図と非文の関連性を論じ、文法に則った意味伝達の構造物としてではなく、人間の認知構造を反映した文化的構造物として言語を捉え直した。</p>
専門的目標	<p>① 大型哺乳類の絶滅から農耕の開始へと至る、旧石器時代から新石器時代以降への文化・社会的な変化について研究を深め、人類が築き上げてきた文明の意義について考察していきたいと考えている。</p> <p>② 様々な価値観が対峙し、せめぎあう現代社会において、個人の考えや選択を尊重しつつ、平和な社会を築いているアナバプティストの社会は非常に多くの示唆に富んでいると考えられる。現在は特に日本におけるアナバプティスト協会の様相について研究を進めている。</p> <p>③ 語学教育の分野では、文法を中心に英語を学んできた学生に対して、(それは決して、相反するものでも排除しあうものでもないが)それとは異なる、人間の認知的基盤に基づいた一つの文化的営為としての言語を教える方法を模索している。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------